

放課後等デイサービスを対象とした研究の動向

Movement of Study for after-school day service

○小幡 知史¹, 渡辺 修宏²

障害児通所支援事業所樹の子クラブ¹, 国際医療福祉大学²

Satoshi Obata, Nobuhiro Watanabe

KINOKO Club, International University of Health and Welfare

keywords: 放課後等デイサービス, 研究動向, 研究課題

問題と目的

放課後等デイサービスとは、学校通学中の障害児に対して、放課後や夏休み等の長期休暇中において、生活能力向上のための訓練等を継続的に提供することにより、学校教育と相まって障害児の自立を促進するとともに、放課後等の居場所づくりを推進する事業（厚生労働省、2012）である。

放課後等デイサービスの事業所・利用児童は現在までに全国で14,809事業所、利用者数は228,220人であり、さらに年々大幅な増加傾向にある（厚生労働省、2020）。このように社会的なニーズが高まっている一方で、支援の質にバラツキがあるなど、様々な問題も同時に指摘されている。

このような背景から放課後等デイサービスを対象とした研究は数多く報告されているが、それらの研究について、これまで体系的に整理されることはなかった。そこで本研究では、放課後等デイサービスを対象としたこれまでの研究を整理し、放課後等デイサービスに関する研究の動向を明らかとすることを目的とした。

方法

調査手続き

これまでに報告された放課後等デイサービスの研究を把握するために、学術情報データベースCiNiiを用いて、「放課後等デイサービス」をキーワードに論文検索を行った。検索の結果、162件の研究がヒットした。

さらにその162件の中から、①放課後等デイサービスと無関係の研究（例えば放課後等デイサービス事業所として使われる建物の建築に関する報告など）、②雑誌等での事業所紹介、③報告内容が重複している研究を除外した。その結果、97件の研究が選定された。

続いて97件の研究を概観し、a)実態調査、b)支援内容、c)現状と課題、d)連携（主に学校）という4つのカテゴリーに分類した。

結果と考察

選定した97件の研究を、発表年別にカウントした（図1）。図1が示す通り、放課後等デイサービスを対象とした研究は年々、急速に増加していた。



図1. 発行年ごとの発表研究数

次にそれらの研究をカテゴリー分けした（表1）。家族や事業所、支援員を対象とした実態調査が最も多く、次いで支援プログラムなどの支援内容に関する研究や、放課後等デイサービスの現状と課題について調べた研究が多かった。

表1. カテゴリー別の研究数（n=97）

カテゴリー	研究数
実態調査	39
支援内容	25
現状と課題	24
連携（主に学校）	9

「実態調査」を対象とした研究が最も多い理由としては、利用児の状態像のみならず、利用児の家族が持つニーズや事業所が抱える課題、さらに放課後等デイサービスに従事する支援員が持つ課題が多様であるためと考えられる。また、次いで「現状と課題」に関する研究が多いことも、上述した放課後等デイサービスの実態そのものが多様であることの裏付けかもしれない。最後に、「支援内容」に関する研究が2番目に多かったものの、その内容を概観すると、特定の支援プログラムの開発など限定的な内容が多かった。支援の質のバラツキが問題として指摘されている現状を考慮すると、今後の研究においては、支援の質のバラツキを等質化できるような支援内容に関する研究が必要であろう。